



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ

つい先日私は地下鉄の中で女性から席を譲られました。自分も席を譲られる年齢になったかと複雑な心境でした。それと同時に、彼女の優しさに心が和むのをおぼえました。◆私は先頃3週間東京で過ごし、地下鉄や電車をよく使いましたが、お年寄りに席を譲る光景は一度も目にしませんでした。ニューヨークでは、お年寄りや体に障害を持つ人が乗って来ると、座っていた人がすぐに立って席を譲るのをよく見ます。ある日、私の乗っている列車に高校生の一団が乗り込んできました。やたらに笑い、わめきたる姿は傍若無人としか言いようのないものでした。いくらなんでも日本ではこういうことはないな、と私は思っていました。74丁目の駅で大きな買い物袋を持ったお年寄りが乗ってきました。それを見た高校生の一人がすぐに席を譲り、もう一人が彼女の買い物袋を横の席に置いてあげたのです。私は彼等に心の中で謝罪しました。◆そんなこともあって、私は東京とニューヨークの違いについて少しばかり考えてみました。ニューヨークの地下鉄は汚く、遅れるのは日常茶飯事です。東京の地下鉄はきれいで、静かで、正確です。ニューヨークで迷ってうろうろしていると、必ず誰かが助けてくれます。日本では外国人の観光客が地図を見ながら考えこんでいるのに、皆知らん顔です。ニューヨークでは毎日何件もの銃による殺人事件が報道されますが、東京では一件でも大事件です。◆以上挙げた相違点から、ニューヨークと東京のどちらがましかと議論するのは不毛なことでしょう。私達に必要なもの、それは自分の中になくて他者にあるものに敬意を表し、自分にあって他者にはないものを相手に差し出す相互補助の大切さを認識することにあるのではないのでしょうか。「あなたの隣人を愛しなさい」というイエスの言葉は、このような考え方の基盤を提供していると私は思います。

◇日曜礼拝説教の要約◇

■ 4月18日「エマオへの道」ルカ24:23-35 二人の旅人がエルサレムからエマオへ向かっている所に、途中から見知らぬ人としてイエスが彼等と歩みをとまします。エマオに着くと二人は見知らぬ人に一緒に宿を取りましようかと誘い、そして3人は

食事を共にします。ルカはその場面を次の様に描写しています。「イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かった。イエスの姿は見えなくなった。」◆このエピソードは、イエスの宣教全体の絵解きなのです。二人の旅人はイエスに希望を託したにも関わらず、彼が死んでしまったので意気消沈していた弟子達を象徴しています。見知らぬ人は二人に請われるままに一緒に宿を取り、食事をした事も、イエスの宣教の簡潔な要約です。イエスは食事を大切にされ、罪人も病人も、弱い物も分け隔てなくパンを分かち合い、葡萄酒を注ぎ合う食卓を囲む行為は神の國の前兆でした。他者の善を願う愛だけが彼等を結びつけていたのです。◆また、このエピソードを支える前提には、イエスは生きておられるという確信です。エマオへの道のエピソードは、復活のイエスのリアリティーにみち溢れています。イエスは私達が希望を失った時、厳しい生活環境の変化で生きる勇気を失った時、私達がイエスだと気づかなくても、人生の旅と一緒に歩いてくださるのです。またこの物語は、イエスに従う者となるとはどのようなことなのかの説明でもあります。二人の旅人は慈しみ、思いやり、友愛の心を通してイエスへの目が開かれたのです。猜疑心、不寛容、憎悪は私達をイエスから遠ざけてしまいます。◆イエスは物語の最後で姿を消してしまいます。私達は肉のイエスを知りません。その意味で肉眼で見るイエスは私達から消えています。しかし、それは問題ではなく、私達は礼拝の中で、祈りの中で、他者の善を願う時になど、イエスと出会うことができるのです。イエスは私達と共に、私達の為に、私達の人生をを照らす灯火として共に歩んでおられるのです。

■ 5月16日「不思議さへの感動」詩編8『パンセ(思索)』 という題の本で知られる17世紀のフランスの思想家パスカルは、その中で人間が人間らしくあるための不可欠な条件として、自分は生かされているという不思議さへの感動が必須条件だ、と言うのです。これこそ現代の私達が喪失しつつあるものではないでしょうか。現代人の多くは、自分が今生きているのは自然の偶然であり、それを不思議に思うなどは人生の敗残者の戯言であって、人生の勝利者には有害である。自分を生かしてくれる聖なるものに感謝するなどという考えは障害物でしかなく、自己を誇示して他者の上に君臨する開き直りの精神こそ大切なのだということになります。◆詩編8編「主よ、わたしたちの主よ。あなたの御名は、いかに力強く、全地に満ちていることでしょうか。あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます」。人間は神の被造物の中で最高のものです。「そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう」。つまり、私たちが今生きているというのは、偶然ではなく神の愛と慈しみの結果なのです。聖書に、人間はその創造主たる神に背を向けて、自分が世界の中心であるかのように生きてると語ります。そんな現代人が感じる何とも言いがたい寂寞感、孤独感、そして侘しさは、生かさ

日米合同教会月報60巻2010年6月号

れているという不思議さへの感動の喪失が原因なのです。◆しかし聖書はそんな人間にも希望が与えられおり、変わることができる」と主張します。イエスの福音はそれを明白にしています。神は遠くから私たちを応援するのではなく、主イエスを通して私達の悩みや痛みを、神ご自身のものとし、共に苦しみ、私達を支えてくださるのです。パスカルが言うように、私達は私達を越えたもの(神の愛と慈しみ)によって生かされているのです。主イエスが共におられるから、耐えられない苦しみはなく、いかなる苦難も私達を絶望の淵に追い込むことはない。そしてまた、他者の幸せを考えて生きることができる。この確信こそが私達の生き甲斐と希望の源です。

◇教会の建物修理◇

教会の建物修理のプランを考える特別チームのミーティングが5月20日に開かれ、理事6名を含む8名が集まりました。4月1日に発生した外壁タイルの剥落の原因は、屋根の水はけが悪く壁に雨水がしみ込んだためと思われるので、外壁と屋根の修理は急務です。ただし、教会の建物は長年にわたり安全確認の検査が行なわれておらず、他にも至急修理を要する箇所があると思われます。この点を考え、これを機に専門のエンジニアに教会の建物全体を調べてもらい、安全上修理すべき箇所をリストアップすべきだとの方向でチームの意見は一致しています。特別チームは現在、建物検査を担当してくれる業者の候補を検討しております。検査だけでも相当額の費用を要する大きなプロジェクトになりますので、単に危険箇所を直すということ以上に、教会の建物を将来の使用に向けてどのように改善したいか会衆の中でも考え、教会としての意向をまとめなければなりません。このプロジェクトに携わるチームに参加して下さる方を募っていますので、ご興味がおありの方は教会事務所までお知らせ下さい。なお、チームのチェアは鈴木エリザベス姉・ダウズ理加姉です。

◇夏期キャンプ・修養会の情報◇

■**子供サマーキャンプ** 恒例の小中学生夏期キャンプ「ディスクバリーキャンプ」が、今年も7月25日(日)から8月6日(金)までロングアイランドのシェルター島で開催されます。対象は3年生-10年生、2週間のフル参加に限ります。プログラムは日英バイリンガルで持たれる予定です。参加費は一人総計1300ドル(兄弟参加割引あり)、6月15日(水)までにお申し込み下さい。詳しい案内・申込書がJAUCにあります。なお、キャンプディレクターはユニオン日本語教会牧師の相良昌彦先生です。

■**東海岸合同ファミリーキャンプ** 隔年で開催されている東海岸日本語教会合同ファミリーキャンプが、9月4日(土)から6日(月)にかけてエレンヴィルで行なわれます。今回は、テレビ伝道などを通して広く福音を日本人に伝えられている榊原寛先生(ワ

ールド・ビジョン・ジャパンの理事長でもあります。牧師歴45年)が主題講演をして下さいます。また、音楽ゲストとして岩渕まこと・由美子ご夫妻も来られる予定です。米国の日本人信徒数百名が一同に会する貴重な時ですので、ぜひご参加下さい。5月30日の第一次締切りまでに申し込むと参加登録費が10ドル割引になります。第二次締め切りは7月11日。詳細は教会で配布している案内書類をご参考下さい。JAUCでの問合せ・申し込みの窓口は鈴木香姉・教会事務所です。当日は教会から会場までバスが出ます。なお、キャンプ翌日の7日には、岩渕ご夫妻のコンサートをJAUCでも開催する話もあります。お楽しみに。

◇山田メアリ姉の昇天◇

数十年に渡りJAUCのメンバーであった山田メアリ姉が4月17日午後4時過ぎ、コロンビア・プレスビテリアン病院で昇天されました。97歳でした。メアリ姉は昨年12月に自宅で転倒され、その後はイザベラホームでリハビリを続けられていました。4月11日のイザベラ礼拝には元気に出席されていましたが、数日後に入院され、鈴木エリザベス姉など数名のJAUCメンバーが見守る中で息を引き取られました。常にユーモアを忘れず前向きに物事を考えるそのお人柄は、教会の全てのメンバーから深く愛されていました。メアリ姉は大戦中は米陸軍の看護部隊に勤務され、その際の体験はブレンダ・ムーア博士の著『Serving Our Country』に詳しく記されています。メアリ姉の記念礼拝は5月30日(日)午後2時からJAUCで開かれる予定です。



◇メンバー関連◇

■**三上直美姉の受洗** 昨年からJAUCに来られていた三上直美姉が、5月23日の礼拝で洗礼を受けられました。おめでとうございます。式にはご両親も出席されました。三上姉はヨーロッパ・アメリカで長年過ごされ、日系企業に勤務されています。

■**赤ちゃん誕生** 4月にハワイへ転居された白石義典兄・真理子姉ご夫妻に5月6日、女の子が生まれました。名前はメイ・ハナちゃんです。妹の誕生に長男の健ちゃんも大喜びだそうです。

■**再会** 1995年-97年にユースリーダーとしてJAUCで奉仕されていた永岡啓兄が徐々にNYを訪問され、5月2日のJAUC日曜礼拝にも出席されました。永岡兄は現在、東京の荒川聖泉教会で副牧師をされています。◆2006年にJAUCに集われていた老田信兄は現在、広島県の油木教会で牧師をされています。『信徒

日米合同教会月報60巻2010年6月号

の友』誌7月号に油木教会が紹介されるそうですので、老田兄も紙面に登場されることと思います。お楽しみに。

◇お知らせ◇

■**6月のスモールグループ(SG)日程変更** SG1「女性信徒の学びの会」の6月のスケジュールに変更があります。6月11日(金)に園田姉宅で予定されていた集いは12日(土)クラーク英香宅で12時から行なわれることになりました。また、26日に園田姉で予定されていた集いも同日午後1時から小林かおる姉宅で行う予定です。■SG7「英語での学びの会」は通常第3日曜日の午後1時15分から開催されておりますが、今月は婦人会バザーに協力するため6月20日には行なわず、第4日曜の6月27日に行なわれる予定です。ご注意ください。

■**アルファコース**:「キリスト教は初めて」という方のためのアルファコースが、4月28日から6月30日まで13回に渡って教会で開かれています。各セッションは毎週水曜日の午後7時から9時までの予定です。担当はダウンズ理加姉・ジェリ吉田姉。

■**婦人会バザー** 婦人会は6月20日(日)の午後2時から教会でバザーを開催する予定です。売り上げはハイチの復興支援、並びに教会の建物修理のために用いられます。セールのための衣類、家庭用品、アクセサリなどの献品を集めています。地下社交室と3階に「婦人会バザー」と書いた箱がありますので、随時その中にお入れ下さい。問合せは富樫素美姉まで。

■**VIP集会** 5月のVIP集会は10日に開かれ、相良昌彦牧師がヨハネ福音書21章をもとに使徒ペテロの信仰についてお話しして下さいました。熊田法子姉が左手にギブスをはめながらも賛美歌のピアノ伴奏をして下さったのは嬉しいことでした。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの集会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれています。6月の会では、天台宗の僧侶から一転キリスト教の牧師になられた松岡広和先生(めぐみ教会牧師)が話を下さる予定です。

■**日曜学校の献金** 日曜学校は、昨年間に集めた献金191ドルをワールド・ビジョンへ寄付しました。子供たちのささげ物が神様のご用のために大いに用いられますように。

■**改革派教団のワークショップ** 米国改革派教会ブルックリン地区会議の主催によるワークショップが5月1日、ブルックリンで開催され、JAUCからも6名が参加しました。このプログラムは、改革派の採用している長老・執事のシステムをもとに、奉仕することの聖書的な意味を深く考えるものです。他の教会が行なっている活動について知る良い機会にもなりました。

■**領事館から** 在留邦人を対象とした海外対策安全政策連絡協議会が4月28日に領事館で開かれ、JAUCのメンバーも出席しました。外国生活を安全に過ごす手助けになるパンフレットを頂きました。社交室にありますので、ご自由にお取り下さい。

◇祈りのリクエスト◇

次の方々を日々の祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセベード(アセベード兄のお父様)、ジェン・アーボン(春日姉のお嬢様)、伊藤ゆう子、岩佐敏男、奥田久子、神崎ヨネ、熊田法子、小口愛(ウェストミンスター教会)、ゴーマン美智子、野間美奈子、デスピナ・プロドロミディス(ホーガン姉のお嬢様)、松本二三子、吉田ジュンジ(バーズ姉のご親戚)、劉正花諸兄姉(五十音順)

◇私の好きな聖句◇

■**吉田小夜子姉** ヨハネによる福音書15章:『わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である...』で始まるヨハネ福音書15章の1節から10節までの間に「つながって」という言葉が9回、『実を結ぶ』という言葉が7回、『愛』という言葉は5回出て来ます。このたとえ話は誰にでもわかりやすく、覚えやすいものです。農夫にたとえられたイエス様の愛が身近かに感じられます。まるで親が子供に何度も何度も諭しているかのようです。◆ぶどうの枝に例えられた私たちの日々の信仰生活もその枝から延ばされたつるのように自分から努力して手を延ばしてつながっていなければ実も結ばないし、やがては枯れて地に落ちてしまいます。◆私は52年前のイースターサンデーに川俣義一牧師先生から洗礼を受けました。先生はお休みの日はよく絵を描いておられました。水墨画に似た先生のぶどうの枝の絵は実にいきぎよいタッチで描かれており、その枝からのびるぶどうのつるはまるでイエス様につかまりたいとでもいうように描かれていたのを思い出します。■**時田都姉** エレミヤ書31章3節:「主は遠くから彼に現れた。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」。

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロウシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、月報のお知らせ欄を確認下さい。

SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル)	第2、4土1時	園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会	第2火11時	時田姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル)	第2、4日9時半	教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会	第2日2時	教会(春日姉)
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会	第1日1時	教会(小林姉)